



高度周産期医療ホットラインの運用開始！

～妊産婦・新生児の速やかな受け入れ先を確保～

福岡県は、切迫早産や多胎妊娠など危険度が高い妊産婦や新生児に対応している福岡大学病院、九州医療センターなど8カ所の周産期母子医療センターを対象に、担当医同士が空きベッドの有無などを直接確認しあう専用PHSを配備し、ホットラインの運用を開始しました。

周産期母子医療センターの集中治療室の利用率はきわめて高く、他の周産期医療機関に受け入れを要請せざるを得ない場合があります。

今回のホットライン導入は、最初に受け入れを要請されたセンターが、他の期間に受け入れ要請する際、電話連絡に要する時間を短縮し、迅速な受け入れを確保することが目的です。

公明党福岡県議団は、9月議会の代表質問で、奈良県で妊婦の搬送先が見つからず死産した問題を取り上げ、産科救急体制の充実を求めました。この際、麻生渡知事がホットラインの整備を確約していたものです。

国際貢献策の充実を

JAICA参加後の進路支援を要請

9月定例会の一般質問で、高橋議員は、国際貢献策を通じて職員を育成していくという視点から、県の国際貢献策の充実を求めました。

また、海外で暮らし、その国の人たちのために貢献する中で、語学力や仕事のスキル、行動力、国際的な視野、チャレンジ精神、人への優しさなどなど、たくさんの力を身に付けて帰国した、国際協力機構（JICA）参加者の力を活かしかれる社会にすべきと主張。県職員のJICAへの積極的な参加と、民間人でJICAに参加した人の帰国後の就職や進学決定に、県として力を貸すべきだと訴えました。

タイ・バンコク都議会を歓迎

タイのバンコク都議会のタワッチャイ・ピヤノンタヤー議長はじめ13人の議員らが9月、福岡県議会を表敬訪問しました。高橋議員は、福岡県議会のアジア交流推進議員連盟の副会長として一行を歓迎しました。



前列右端が高橋議員



自転車の安全確保へ

東京・三鷹市
名古屋市

先進地を視察し、条例制定などを提案

高橋議員ら公明党福岡県議団は、自転車走行の安全を確保するため、東京都三鷹市と名古屋市を視察し、決算特別委員会で福岡県の取り組みを促しました。



三鷹市は平成16年、「市自転車の安全利用に関する条例」を施行。それまで小学校3年生を対象に行っていた自転車安全講習会を一般市民にまで拡大しました。講習を受けた人には自転車安全運転証を交付しています。この安全運転証を持っている人には、希望する駅前の駐輪場を優先的に利用できるようにしています。こうした施策によって自転車関連の交通事故が減少傾向に転じています。

名古屋市では、道路の改良によって自転車の安全確保を図っています。幅の広い歩道を植栽帯や舗装の材質・色、区画線などによって自転車が走行する部分と歩行者が歩く部分に分け、併せて道路標識のような啓発サインを掲示しています。

決算特別委員会では、こうした事例を紹介し、条例の制定や安全講習会の充実、道路の改良など、行政、警察本部、県教育委員会に

求めました。



④三鷹駅前違法駐輪の監視員に話を聞く高橋議員
⑤歩行者と自転車走行の部分に分けた名古屋市の歩道を視察

神崎常任顧問、訪問対話運動の先頭に 公明党の神崎武法常任顧問（衆院議員）は、全国の議員が取り組んでいる訪問対話運動の先頭に立ち、福岡県内各地で支持者らを精力的に訪問しています。博多区へも2回、立ち寄りました。